

令和 2 年度 県立取手松陽高等学校自己評価表

目指す学校像	学校・家庭・地域社会と緊密な連携を図りながら、教職員と生徒が協働して全ての教育活動に積極的に取り組み、明るく活力ある学校を目指す。具体的には、全日制普通科・美術科・音楽科を併せ持つ学校の特色を活かし、生徒の「生きる力」の育成と本校発展のために、教職員が明確な目標を持ち、教育実践の充実を図る。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
(成果) ○基本的な生活習慣の確立や服装容儀を整える生徒指導、課外授業の充実といった進学指導等を通して、国公立大学への進学や公務員試験合格者も増加した。 ○各学校行事、部活動、生徒会活動、国際交流活動等を組織的・計画的に展開することで、生徒・保護者と教職員が一体となる実践成果が達成されつつある。 (課題) ○礼法や基本的な生活習慣のより一層の定着と教職員一人一人が全体的な視野で取り組み、国際理解教育や道德教育の充実、部活動の活性化、生徒個々の進路実現を目指す。 ○新学習指導要領の方針に沿って、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の確立を目指し、研修会への参加や公開授業を積極的に実施するなど、全教職員で授業改善に取り組む。	基本的な生活習慣と学習習慣の定着	① 朝の交通指導と登校指導の充実を図り、挨拶・遅刻指導、端正な制服着用を含めた生徒指導を徹底する。 ② 毎日の授業を大切にすると同時に、家庭学習習慣の徹底を図るため、保護者の理解と協力を得るように努める。	B
	学力の向上と個別面談の充実	① 「主体的・対話的で深い学び」を授業で展開することで、生徒の授業への取組を充実させ、学力向上を図る。 ② 積極的に課題や小テストを活用することで、家庭学習の時間を増やし、自主学習の習慣を定着させる。 ③ 年間を通して個別面談を計画的に実施し、進路について主体的に考える力を身に付けさせる。	B
	国公立大学や難関私立大学へ挑戦する進学対策の確立	① 受験対策を充実させ、国公立大学合格者数延べ 5 人、私立大学合格者数延べ 120 人を目標とする。 ② 進路講演会や高大連携などの取組を拡大し、生徒の進学意欲を高める。 ③ 土曜開放の内容充実やきめ細かい課外指導等により、一般入試で合格できる学力を育成し、一般入試合格者数を増やす。 ④ 三年間を見通した体系的な進路指導の確立と、新しい学力観に対応した指導法の研究を図る。	B
	特別活動・部活動の活性化による学校生活の充実	① 部活動加入を働きかけ、加入率 70%以上を目標とする。 ② 地域行事への参加や地域の施設などと連携し、奉仕活動や体験活動・国際交流を積極的に推進する。 ③ ホームルーム活動や学校行事及びボランティア活動等を充実させることで、生徒が自ら学んだことを振り返り、将来を考え、自分の成長を認識できるようなキャリアパスポートを作り、活用する。	B
	働き方改革の推進	① 職員室の施錠時刻を厳格化し、職員の退勤を促す。 ② 部活動の活動時間を短縮し、生徒・職員の負担を軽減する。	C

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期) への主な課題
教 務	授業の質の向上と授業時間確保に努める。	・授業改善を意識するよう校外での授業参観や研修会への参加を積極的に促す。	B	授業改善に向けての学習評価の改善, I C Tを活用した授業実践への取組を考え, 研修の機会を検討する。
		・研究授業・公開授業(相互参観等)を推進し, 全教職員で授業改善に取り組む。	C	
		・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の確立を目指し, 「友と共に学ぶ」という「とも学」を合い言葉に授業の充実を図る。	B	
		・授業開始・終了時刻の厳守, 出張・年休等における授業時間確保に努める。	B	
	特色ある学校づくりと学校全体の活性化を図る。	・3学科それぞれの特色を生かして連携を図り, 学校全体の活性化を推進する。	B	今年度は予想外の事態となり, 実施できなかったことが多かった。コロナ禍においても実施可能なことを模索し, 学校全体の協力体制を作る。
		・地球市民教育を支援し, 国際理解教育の充実を図る。	B	
	開かれた学校づくりと地域の信頼獲得に努める。	・学校説明会, 体験入学, 公開授業等によって本校の教育活動を地域に開かれたものとし, 本校の特色や魅力を積極的にP Rする。	C	
		・情報部と連携し, 学校H Pの内容をより一層充実させ, 「松陽通信」の発行・配布により中学生や地域に向けての広報活動を活発に行う。	C	
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	・身だしなみを整えて生活をさせるために, 登下校時の指導・授業時の指導(段階的指導)を徹底する。	B	服装指導の共通認識や徹底を図る。
		・挨拶を励行し, 教員側からも積極的に挨拶をしていく。	A	
		・遅刻を減少させるために, 昇降口での登校指導の充実, 本人との面談, 家庭との連絡を徹底する。また遅刻指導を実施する。	B	
	事故等の未然防止に努める。	・事故等(交通, 生徒指導, 校内における諸問題)の未然防止に努めるため, 各関係機関との連携, 必要に応じて生徒面談, 保護者面談を行う。	B	
特別活動	学校行事を通して, 帰属性・協調性・責任感を養う。	・文化祭・クラスマッチ・全校野球応援を通して, 達成感を体得させ, クラス・学校全体の連帯感を培う。	B	コロナ禍ではあっても臨機応変に対応し, 心身の成長ができるように行事を運営する。
		・キャリアパスポートを活用し, 個人個人が主体的に行事に取り組む姿勢と態度を養成し, 責任感を持って行事に臨む精神の育成を図る。	B	
	生徒会・委員会・部活動への積極的な参加とその継続を図る。	・生徒が主体となる生徒会活動・委員会・部活動を行い, その内容の充実を図るとともに, 組織の一員としての自覚と責任感を養う。	A	
		・ボランティア活動・地域交流活動の中で, 活動への積極的な参加を呼びかけ, 生徒の自主性や社会性を培う。	B	
進路指導	進路目標を持ちその実現に向け行動することの重要性を自覚させ, そのための意欲と実力を養成する。	・最新の入試動向の情報収集に努め, 各学年と協力し段階ごとの対策を進める。	B	可能な限り体験型進路行事の再開を図ると共に, I C T等を活用した情報提供の手段も開拓する。
		・難化する大学一般受験にも対応できる学習力を育てるための指導体制を整える。	C	
		・入試方法の多様化に向け, 各種検定受験の奨励に努める。	A	
		・国公立大学・短大5名, 私立大学延べ120名の合格を目指す。	C	
	学習習慣を確立させ自学力を高め, 基礎学力の定着を図る。	・課外授業に加え, 「朝活」等の個別学習に積極的に取り組ませる。学校や家庭での主体的な学習を促し, 自学自習の習慣を定着させる。	C	感染対策に留意しつつ課外等の再開・学習スペースの確保を図る。また, 進路対策に余裕を持たせるために進路行事の前倒し等の見直しを検討する。
		・専門学校希望者に対して, 専門学校の特性を理解させ, オープンキャンパスや進路講演会だけでなく, 適切な選択をするための相談と情報提供に努める。	C	
		・就職希望者に対して, 各学年の発達段階に即した勤労観・職業感を身につけさせる。3学年では個別指導を徹底し, 個々の適性にあった企業選択を支援する。	B	
		・H R等での進路の手引きの利用を推奨する。また, 保護者への情報提供に努め	B	

		て連携を強化し、進路や学習に対する家庭での意識の啓発を図る。			
保健厚生	保健室利用に対する職員の共通理解を図る。	・保健室利用カードを用いて、担任や教科担当が生徒の状況を把握しやすくする。	A	B	保健室利用カードの活用を継続していく。
	生徒の自己管理を支援する。	・保健室の利用の仕方や注意点を明示し、時に応じて必要と思われる情報を生徒に知らせる。	B		来室が多い生徒は、カウンセリングを勧める。
	施設整備を大切に扱う心や公德心を育成する。	・環境美化委員会による学期1回の学校周辺の美化活動を実施する。	C		コロナ禍でも出来そうなことを工夫し実施する。
		・松陽祭（文化祭）開催時に校舎周辺の美化活動を実施する。	C		
	学校環境や清潔さの保持のため清掃を図る。	・必要に応じて清掃区域等の見直しや工夫をする。	B		
		・確実なごみ分別のために、分別表を各クラスに通年掲示する。	A		ゴミの分別が出来ていないことがあるので、年度当初に周知する。
		・一斉清掃時の具体的な重点目標を明示する。	A		
図 書	読書場としての機能の充実を図る。	・蔵書整理等で書架を整理する。	B	B	図書館の環境を整えるとともに、様々な本を紹介し、読書に親しむきっかけを与えられるようにする。
		・季節・テーマに沿った館内ディスプレイを工夫する。	B		
		・図書館便りを発行し、本に興味を持たせる。	A		
		・選定委員会を開き職員からの図書購入希望に対応する。	A		
		・生徒の購入希望に随時対応する。	A		
	学習の場として資料の提供および利用指導を行う。	・新入生に対する図書館ガイダンスを実施する。	B		教科・学年と連携して、学習に使用する資料を蓄積し、自発的な学習活動のできる場を目指す。
		・時事・学習・学校行事などテーマ図書の展示を実施する。	B		
		・公共図書館の利用案内・県立図書館サービスの活用方法の案内をする。	A		
	図書委員会の活性化を図る。	・研修会への参加を促す。	B		当番生徒と担当教諭の連携を密にし、活動の活性化を図る。
		・図書委員の当番の仕事(カウンター業務・購入図書のコーティングなど)を明確化し、責任を持って取り組ませる。	B		
渉 外	PTA活動を活発にするように働きかける。	・総会の出席率、支部総会の出席率が上がるように保護者に働きかける。	B	B	コロナ禍におけるPTA活動のあり方について、検討が必要と思われる。
		・PTA本部役員と連携し、積極的に活動しようとする流れを継続させる。	B		
		・研修委員会や本部、各支部が企画する行事を保護者に知ってもらい、積極的に参加してもらえよう、情報が会員の手元に届くような工夫をする。	B		
	同窓会との連携を密にする。	・同窓会役員との連絡を密にし、活発に活動できるように働きかける。本校の教育活動を後援してくれる会になるよう、卒業生に働きかけていく。	B		コロナ禍における同窓会活動のあり方について。
情 報	ITを含めた環境整備とITを活用した授業の推進を積極的に図る。	・パソコンを中心に保守・点検を行い、入替え・更新等を検討して、よりよい環境整備を進める。同時に古いパソコン等の廃棄処分を計画的に行う。	B	B	継続的にIT機器の保守点検を行い、入れ替え・更新等を計画的に行う。
	個人情報保護と情報モラルについての研究を進める。	・学校で取り扱う電子データについて、その保護及びバックアップを行い、個人情報保護の方策（データの管理体制など）を万全とするための取り組みを推し進める。	B		継続的な啓蒙活動を進め、生徒及び教職員の情報保護および情報モラル、ネットの意識向上を図る。
		・教科「情報」や生徒指導部と連携を図って、情報モラルについての職員の共通理解・生徒への指導を進める。	B		

	本校の保護者や入学希望者やその保護者にきめ細かな情報提供を行う。	・ホームページを通して、本校の特色・教育目標・活動状況などをより分かりやすく伝えられるような最新情報を随時提供する。 ・緊急情報配信メールについて在校生徒・保護者に有益な情報源となるような配信の体制作りと実際の配信を目指す。	A		コロナ禍にも留意しホームページの記載内容、デザイン等について検討し、よりよいものを目指す。緊急配信メールもさらに有効に活用していく。
美術科	授業を中心とした指導体制の強化を図り、実技向上と教科学習の両立を目指しながら、表現に必要な技能を高める。	・学習と実技を両立させるために、制作時間の確保と効率良く教科学習ができるように授業担当者と連携を図り、バランス良い学習習慣の定着を図る。	A	B	学習面と実技面での相乗効果が見受けられたので継続して指導体制を強化していく。
		・継続的な実技課外の設定と大学・予備校との連携を積極的に行うことで、実技力向上を目指し、実技を通して観察力・思考力・描写力を磨く。	A		
	課題制作を通して必要な知識・技能を身につけ、第24回取手松陽美術科展の成功を目指す。	・専攻授業年35日を確保し、より完成度の高い作品制作と発表できる環境を整える。	A		美術館での作業ができなくても、校内展示等を想定した役割の細分化を図る。
		・展覧会を開催するために必要な各種作業を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養うとともに、達成感や充実感を味わわせ、自分の役割に責任を持てるようにする。	A		
	様々な行事体験を通して進路意識の向上と美術界の次代を担う人材育成を目指す。	・芸術鑑賞会等で本物に触れる機会を増やし、美術の文化や歴史を学ぶことで豊かな感性を育み、伝統や文化に対する興味・関心をより高める。	B		コロナ禍でも可能な本物に直接触れる機会などの代替案の検討と、安全に行事を増やしていけるよう努める。
		・オープンキャンパスや大学・予備校などの出張授業や講習会への参加を促し、幅広い芸術分野への興味・関心と理解を深め、進路選択の幅を広げられるようにする。	B		
		・地域や各種機関からの参加要請や、ボランティア、コンクール応募等に可能な限り応え、美術科としての誇りとプライドを持ちながら、社会貢献の一助を担えるように努める。	A		
音楽科	授業を核とした豊かな人間性の育成と個の能力を高める指導体制の充実を図る。	・毎日の授業を大切にし、何事にも興味をもって学習する姿勢を身につけさせ、専門科目と教科学習をバランス良く学習することで豊かな人間性を培う。	A	A	引き続き、生徒の成長につながる学習内容の工夫と協力した指導体制の充実を図る。
		・指導スタッフと連携し、指導法の工夫や教材研究を共同的に行い、専門実技年間35日をはじめ授業日の確保に努め、実技の個人指導やソルフェージュの習熟度別学習を通して、一人ひとりの能力を高める指導体制の充実を図る。	A		
	進路意識の具体化を図る。	・オープンキャンパスや講習会への参加を促し、進路に対する意識の高揚と目標の明確化を図る。高大連携として、各音楽大学に公開レッスンや実技ガイダンスの要請を積極的に行い、情報提供や交流を図る。	A		面談を重ね、生徒の言葉に耳を傾け、一人ひとりの状況に応じた進路指導を継続する。
		・保護者、実技担当者、大学との連携を図り、生徒が希望をもって第一志望校合格の実現に向けて努力できるよう、面談や個人指導を重ねる。	A		
	様々な音楽科行事を通し、芸術的感性の伸長を目指す。	・校内外における演奏会や公開レッスン、芸術鑑賞会など生徒の芸術的感性を刺激するような行事を積極的に企画運営する。また、行事を通して社会における音楽の役割や意義について考える機会にもさせたい。	A		代替案も検討しながら、行事の目的が十分に達成できるよう計画する。
		・正しい服装やマナーの大切さを自覚させ、アーティストとしての誇りと調和の	A		

		とれた人間性を培う。			
	地域社会や中学校への働きかけを重視し、相互理解を深める。	・中学校訪問，体験入学，学校説明会，HPの活用など対外的広報活動を充実させ，地域社会や中学校との相互理解を深める。また，地域事業への参加や訪問コンサートを実施し，社会における音楽の役割や意義について考える機会を設ける。	C		HPの活用や中学校との連携に力を入れ，本校の取り組みを理解していただく努力を重ねる。
事 務	より良い環境づくりのための施設及び設備の整備に努める。	・常に施設及び設備の点検を行い，不良箇所については早急に修繕する。 ・定期的に業者による清掃を行い，清潔な環境を整える。 ・計画的に樹木の剪定を行う。	A	B	生徒がより良い環境の元で学べるよう，施設設備等の整備に努める。
	会計の効率的執行に努める。	・備品，消耗品を早期に購入し，年度内の授業で有効活用できるようにする。	B		教諭との連携を密にし，さらなる効率的執行を目指す。
教科指導	指導計画を充実させ，指導形態・方法の工夫に努め，授業力の向上を図る。	・観点別評価を重視し，総合的な評価を目指すことで，生徒の学習意欲を高める工夫に努める。 ・教職員の研修を充実させ，指導法の向上に努める。	B	B	観点別評価を基本とした学習状況の評価を活用し授業の改善を図る。
	自ら学習に取り組む意欲を高め，課題解決能力の向上を目指す。	・学力向上重点目標を実現させるため，学年多目的室や個別学習室の充実を支援し，自主学習の定着を図る。	C		タブレットの導入にあわせて，個別学習や家庭学習の推進を図る。
国 語	計画的に授業を展開し，授業力を向上させる。	・授業目標に沿う授業計画を立案し，密度の濃い授業を展開する。	B	B	教科内で指導内容を検討し，生徒の実態・興味関心に合わせた授業を展開する。
		・授業終了後に指導内容を点検し，次の時間の授業改善につなげる。	B		
	基礎学力の定着を図ると共に，進学対策を充実させる。	・小テストを利用して学習理解度を把握し，不十分な生徒に課題等を課す。	A		生徒の学習意欲を高め，主体的な学習態度を養うため，教材や授業内容をより充実させる。
		・課外授業を充実させ，応用力を身に付けさせる。 ・現代文はもちろん，興味を失いがちな古典に対しても，言葉や文化が現代の日常生活に密着していることを習得させる。	B		
地理歴史	密度の濃い授業を展開する。	・目標に沿った授業計画を立案し，担当者間の協議を密にする。	B	B	担当者間の連携を強化し，授業改善に努める。
		・授業後の内容点検，反省を常に行い，授業の改善に努める。	B		
	学ぶ意義を理解し，学ぶ喜びを実感できる授業を展開する。	・教材，授業内容・方法について研究協議を開き常に改善に努める。	A		各種研修会に参加し，相互の研鑽に努め，授業の改善していく。
		・各種研修会に積極的に参加し，成果を伝達し，相互の研鑽に努める。	B		
公 民	生徒の学習理解の把握・評価に努める。	・あらゆる機会，材料を通じて生徒の学習理解度を的確に把握し，授業の展開に役立て，多角的・総合的な評価を実施していく。	A	A	学習理解度を的確に把握し総合的な評価に努める。
	密度の濃い授業を展開する。	・目標に沿った授業計画を立案し，担当者間の協議を密にする。 ・授業後の内容点検，反省を常に行い，授業の改善に努める。	B A		担当者間の協議を密にし授業改善に努める。
	現代社会の事象を理解し	・教材，授業内容・方法について研究協議を開き常に改善に努める。	B		最新の情報の収集分析し，

	探究する喜びを実感させる。	・最新の情報の収集、分析に努めるとともに、各種研修会に積極的に参加し、成果を伝達し、相互の研鑽に努める。	A	教材等の改善に努める。
	生徒の学習理解の把握・評価に努める。	・あらゆる機会、材料を通じて生徒の学習理解度を的確に把握し、授業の展開に役立て、多角的・総合的な評価を実施していく。	A	学習理解度を的確に把握し総合的な評価に努める。
数 学	進路希望に即した授業の展開を図る。	・年間指導計画を作成し、それに基づいて授業を実施して、定期的に授業の進め方や教材の用い方を検討し、生徒の実態に応じた授業を展開する。	B	教材・内容を検討し、生徒の実態に応じた授業展開を工夫する。
		・進度・内容・教材の工夫等の連絡・研究を密にし、個人の進路希望に対応できるように、チームとして指導する。	B	
	生徒の基礎学力の定着を図る。	・予習復習の習慣付けを促す。	B	B 予習復習の習慣づけを促したり、より多くの練習問題に取り組みせたりするなど、学力の全体的な底上げを図る。
		・定期的に小テストや課題提出を実施し、基礎的事項の定着に努める。	A	
		・理解不十分な生徒への補習を実施するなど、学力の全体的な底上げを図る。	B	
		・計画的な課外により応用力を高める。	A	
理 科	身近な自然現象を探究することで、自然科学に対する興味関心を高める。	・考える機会のある授業を展開するし、自然について興味関心を高めて、その知識を身に付けさせるように努める。	B	B 全体的に実験を取り入れることが少なく、基本的な操作を体得させることができなかった。実験の数を増やしたい。
		・身近にある材料や自然現象を活用した観察・実験を行いながら、器具の基本的操作を習得させる。	B	
		・コンピューターを活用した視聴覚教材を授業に効果的に取り入れる。	B	
	基礎学力の定着を図り、科学的思考を養う。	・生徒の実態に即した学習課題を出し、授業以外での学習時間を確保する。	B	計画的に課題を設定し、基礎 学力を定着できるように取り組みたい。
		・授業の予習と復習を促し、生徒が主体的に授業に取り組めるようにする。	B	
		・課外授業や補習を充実させることにより、生徒の科学的思考力を養う。	B	
保健体育	体力、運動技能を高めるとともに、運動の楽しさ、喜びを味わい、生涯に渡って運動に親しむ実践力を育てる。	・体力テストの結果から自己の体力状況を捉えさせ、一人一人に合った運動時間、運動量を確保させ、体力の向上を図る。	B	B 運動量の確保と共に、ICT機器を工夫して活用し、様々な方法で運動に親しむ実践力を育てる必要がある。
		・チーム毎に作戦や計画を立てさせ、練習内容を工夫し協力し合うことで、自己の役割を果たす態度を育て、運動の喜びや楽しさを味わわせる。	B	
		・さまざまな体づくり運動を通して、運動に対する興味・関心を高めさせると共に、基礎的な体力・技能を向上させる。	A	
	健康・安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理する力を育てる。	・健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択が実践できるようにする。	B	実生活に即した教材を取り入れ、より実感を伴う授業内容となるようにしていく。
・様々な感染症の原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解させ、自己の健康管理に努めさせる。		A		

		・薬物乱用，未成年者の飲酒，喫煙は心身の健康に深刻な影響を与えることを実生活に即して理解させ，絶対に関わらないという意志を持たせる。	A	
英 語	家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	・小テストの実施や課題を計画的に課すことにより，学習意欲の喚起と家庭学習時間の確保に努める。	A	個々の生徒に適切なレベルの課題を用意し，継続的な学習を促す工夫を探す必要がある。
		・授業の予習・復習を継続的に促し，それによって生徒の授業への積極的参加を図る。	B	
	授業内容の充実と個に応じた指導を行う。	・教材の効果的活用によって，学習内容に対する興味・関心をより一層持たせる授業を展開する。	A	B I C Tを積極的に活用し，学習内容に対する興味・関心を一層持たせる工夫を教員間で共有していく必要がある。
		・研究授業の実施や教職員間の情報交換を密にすることによって，互いの授業の質の向上を図る。	B	
		・課外指導の充実により，個々の生徒の学習段階・進路希望に即した指導をおこなう。	B	
	コミュニケーション力を育成する。	・ALT の効果的な活用や，ペアワーク・グループワーク等の授業形態の工夫により，生徒が自信を持って主体的・積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を養う。	B	自分の意見を堂々と表現できる自信を培う指導をする必要がある。
家 庭	生活の営みを総合的にとらえ，社会とのかかわりを理解させる。	・家庭生活の様々な事象の原理・原則について，科学的根拠に基づいて理解させる。	A	B 学習内容に応じて I C Tを活用し，生徒の興味・関心を高め，学習意欲につなげたい。 他者の言動・行動を観察しながら自分を振り返り，学習を深めていけるよう指導を心がけたい。
		・消費や環境など地域社会とのかかわりを理解させ，グループによる対話的学習を通して，意志決定や問題解決能力を高める。	B	
	生活に必要な知識や技術を習得させ，生活を創造する実践的態度を養う。	・グループによる実験・実習を通して，協力する姿勢や相手を思いやる態度を育む。	B	
		・基本的な知識や技術を習得し，ホームプロジェクトなどを通して，主体的に生活を創造する実践的態度を養う。	A	
情 報	情報化社会で生き抜く力を養う。	・情報モラルを身に付けるとともに，最新の I T環境を踏まえて著作権等の他人の権利を尊重する姿勢を育む。	B	B 最新の I T環境を踏まえて授業の展開を工夫する。 信頼性，信憑性が高い情報を見分けそれを適切に利用できる学習を工夫する。 質の高いプレゼン作品を目指し，内容を工夫し実際に発表を行う。
	正しい情報を収集する力を養う。	・ブラウザなどを用いたインターネット上の情報検索について知り，有益な情報収集の手段を学び，知り得た情報を有効活用する。	B	
	情報を正しく発信できる力を養う。	・プレゼンテーション作成ソフトを使って作品を作り，その発表を通してプレゼンの有効活用や情報発信の基礎を身に付ける。	A	
1 学年	基本的な生活習慣の確立，規範意識や礼儀を重んじ，	・遅刻を限りなく少なくする。	B	B 引き続き，一人一人の行動の変容に注視しながら質
		・挨拶を励行する。	B	

	相応しい態度を育成する。				の向上に務めたい。		
		・取手松陽高校の生徒として、あるべき姿を身に付けさせる。	B				
	高校生としての学習の基礎を築き、将来の希望進路実現に向けて主体的に学習する態度や向上心を育む。	・自主学習の質や量の充実を図る。	B		各自の学習に取り組む姿勢を整えさせ、最終学年での進路実現への足掛かりとしたい。		
		・課外への積極的な参加を図る。	B				
		・検定試験（英検、漢検、数検）の積極的な受検を促す。	A				
		・模擬試験に対する準備や振り返りの充実を図る。	B				
		・生徒が自ら学んだことをまとめたキャリアパスポートを作り、自分自身の成長を確認させる。	B				
	学校内外の様々な活動に全力で取り組ませ、人間的な成長を促す。	・部活動への積極的な加入、活動の充実を促す。	B		一人一人がさらに充実した活動ができるよう支援したい。		
		・ボランティア活動の積極的な参加を促す。	B				
		・生徒会活動、各種係や委員会活動の熱心な活動を促す。	B				
2学年	基本的生活習慣を確立させ継続させていく。	・教員自ら挨拶を励行し、生徒との良好な人間関係をつくる。	B	B	最高学年としての意識を高めさせ、卒業まで気を抜かせない指導をしていく。		
		・欠席、遅刻、早退の数が増えないように、日頃から指導していく。	B				
		・時間厳守を徹底するため、5分前行動、チャイム着席の指導をしていく。	C				
		・よりよい生活習慣を身につけさせ、多くの生徒にそれを継続させていく。	C				
	ルールとマナーについて理解させる。	・服装指導、頭髮指導、学校生活を通して、学校のルールを理解させ遵守させる。	B			引き続き、集団の中での自分自身の在り方生き方、協調性の大切さを伝えていく。	
		・社会生活におけるマナーについても指導していく。					
	協調性を身につけさせ、集団の一員であることを理解させる。	・他人を思いやる心を育てるため、生徒同士の触れあいを大切にさせる。	C				
		・学校行事、HR活動、その他普段の生活で、自他敬愛を意識させ、学年やクラスのまとまりをつくり、よりよい雰囲気づくりをしていく。	B				
	進路に対する自主的な行動ができるよう指導する。	・教員側から様々な方法で仕掛けをしていく。	B			進路指導は、担任中心ではなく、学年全体で取り組んでいく。 生徒との信頼関係をより強固なものにしていく。	
		・どんな小さいことにも目的意識を持って取り組ませていく。					
		・より多くの進路情報を生徒に伝えていく。	B				
		・進路に関する行事を通して、より多くの生徒のやる気を引き出していく。	C				
		・できるだけ早期に自らの進路実現を意識させ、実現に向けてキャリアパスポートを作成し、効果的に活用できるよう指導していく。					
3学年	いかなる困難にも対応できる柔軟な発想を育む	・SNS等の使い方に注意しながら氾濫する情報を取捨選択し、安心・安全な生活習慣を確立させる。	B	B		家庭学習計画とその効果的な実行のあり方について研究する。	
		・手帳を効果的に活用し、計画に基づいて家庭学習時間を確保させる。	C				
	個々の進路希望に応じた、「208通り」の進路実現をめざす。	・早期に希望進路を明確にさせた上で、さまざまな角度から情報収集をさせる。	B				希望進路に即したキャリアパスポートの充実を図る。
		・将来を見据えたキャリアパスポートを作成させ、効果的に活用させる。	B				
		・外部模試の受験前・受験後の学習を充実させる。	A				
「208通り」の生活力向上をめざした指導を行う。	・時間の管理を意識させ、遅刻者を限りなく少なくする。	C		遅刻者を減らし、進路決定後の生活を充実させるための方策を検討する。			
	・各個人の行動と自覚に責任を持たせ身だしなみやあいさつをしっかりとさせる。	B					
		・進路決定後も、意欲的な学習と落ち着いた生活態度を継続させる。	C				

評価規準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不足 E：不十分